

プレアビヒア

2018年新しい村が発進

2019 April
No. 001

エコビレッジ今

季刊2019春号
Cambodia magazin

2018ICC会議・エコビレッジ計画

エコパークの今（共同事業）

- (1)電気が来た！！
- (2)道路が出来た
- (3)村の未来

プレアビヒア寺院
カンボジア・プレアビヒア州

プレアビヒア寺院の紹介・協会の活動

PVAJ
広報誌

目 次

巻頭言 プレアビヒアあれこれ(会員の皆さまへ)	1
1. エコビレッジ活動 (ICC会議報告)	3
2. 2018年のエコパークにおける住民との共同事業	5
(1)借り受け事務所とお花畑をつなぐ道路の開通 (2018年5月)	6
(2)事務所と幹線道路を結ぶアクセス路の架橋 (2018年6月)	6
(3)事務所と幹線道路を結ぶアクセス路の開通 (2018年6月)	6
(4)植樹の進展 (2018年6,8,9,11月)	6
(5)幹線道路沿いの電柱の建設 (2018年6月～)	7
(6)幹線道路の拡張工事 (2018年10月～)	7

プレアビヒアあれこれ（会員の皆様へ）

“天空の寺院”とも呼ばれるレアビヒア寺院は、タイとの国境に接した山の上にある。このヒンズー教の寺院が2008年7月にUNESCOの世界遺産に認定されてからすでに10年超。プレアビヒア寺院はカンボジアのもの、という国際裁判所の判決はタイもこれを受け入れている。この寺院はいずれの側から見ても素晴らしい。標高的にはやや低い、タイ側から見ると、小さな谷の反対側の斜面にまっすぐ登るようにして配置された寺院の姿が遠望できる。“窓枠の向こうに見える景色”は美しい姿絵のようにも見える。

一方カンボジア側は大方以下のようにになっている。寺院はスロープの足元にあたる“王の階段”とそれを登り切ったところにある山門（ゴプラ5）から始まる。山頂に向かって点在する石造の寺院（上に向かってゴプラ4, 3, 2, 1の順）とそれらをつなぐ石畳を辿っていくと、山頂にたどり着く。ゴプラ1と言われる“奥の院”はそこに鎮座している。神聖な場所であり、通常ここで参拝する。その先にある大きな一枚岩が展望台で、広大な自然が地平線まで続く。息をのむ美しさである。スコールの終わりに山頂に居合わせると、下に雲が走っていることがよくある。

プレアビヒアをタイ側と併せて見ると、普通ではあまり見ない贅沢な設計になっていることが判る。それがこの寺院の特徴であり、素晴らしさである。断っておくと、この“二つの景色”の間には国境がある。両方を訪れるには2日間を要するが、タイ側や場合によってはラオスの村々を訪れながら、その辺りにあるヒンズーの寺院を見て歩けば、クメールの影響が広くメコンの国々まで及んでいたことが見て取れる。

話しは変わるがプレアビヒア開発におけるユネスコグループの役割と、当会の目指すところの役割は補完的であるがそれについて触れておきたい。

長く続いたインドシナでの紛争の流れの中で、カンボジアにあっては、ポルポト軍が完全に消滅したのは1998年のことである。長期にわたってポルポト軍の戦闘拠点の一つとなっていたプレアビヒアによろやく平和が訪れたのはこの時である。UNESCOによる世界遺産の認定がなされた後に、寺院の修復・保存作業をどこの国が引き受けるのか、そのグループ結成には当初計画を超える日時を要した。しかしそこで先ず必要とされたのは、疲弊しきったプレアビヒアの村の開発と住民の生活水準の底上げであることは言うまでもなく、さらに今後世界遺産を守っていくための二つ目の条件は“地元の人達”の結束とである、との認識をUNESCOや現地側が我々に訴え続けていた。そこでこの二つをサポートすることを念頭に、我々の仲間数が集まってスタートしたが、プレアビヒア日本協会である。10年程前のことである。前後するが、プレアビヒア開発の目玉は寺院の修復・保存であることに変わりない。これには史実を見極める深い知識と専門的な技術・経験を必要とする。我々NPOには手が届かない世界である。この作業は当然ながらユネスコ加盟国の中でも十分な経験を積んだ国にお願いする必要がある。どこの国に引き受けてもらうのか、結果的にその

グループの結成には当初の計画を大幅に超える日時を必要とした。これはこの地域がこれまで背負ってきた国内外の問題とそれに根ざした複雑な国際事情のなせる業であり、部外者の私から見ても仕方ないことのように見受けられる。しかしここに来て幸いにも寺院の主要部分に中国・インドに加えて米国が参加することが正式に決まった。これにより今プレアビヒア寺院の修復に向けた動きがはっきりと見えてきた。

それにしても平和の有り難さと、いかなるレベルであれ、そのプロセスに民間が見えないところで貢献していくことの大変さ、大切さをしみじみと感じている。平和は待っていれば来るものではなく、作っていくものである。とするのであれば官民合わせてなすべきことは山ほどある訳で、中・印・米の支援参加が（PPPを必要とするプレアビヒア開発において）ポジティブな流れを生み出すに違いない。ちなみにフランスと日本はアンコールワット修復において、共同議長国としてそれぞれが大役を果たしつつあるので、ここはそれ以外の国々に力を発揮してもらい、ということでも理解出来る。幸い寺院への訪問者の数は年毎に増加している。またプレアビヒア州の貴重な文化財の一つであるコウケイ遺産も、将来の世界遺産指定を目指す未来の候補プロジェクトとしてUNESCOのリスト入りすることになった。2019年をプレアビヒア開発の“ギア・アップの年”と位置付けるためにも、会員の皆様からのお力添えいただきながら、エコビレッジの開発支援をしっかりとやっていきたいと思う。

アジアの誇り・プレアビヒア日本協会
理事長 森田徳忠

協会は2018年も連続して現地で植樹活動を行ったり、現地の方々と農業開発の計画を相談したり、一部を実施してきておりますが、今年に入ってからこの村の発展には目を見張るものがあります。

2018年4月～12月の現地での活動を報告いたします。

1. エコビレッジ活動（ICC会議報告）

2018年9月20日にカンボジア政府とUNESCOとで開催されました、「第4回ICCプレアビヒア技術会議」で、「エコビレッジ地域開発」がNAPVから世界各国のUNESCO関係者に説明されました。以下に報告いたします。（協会理事長他も招待され出席しました）

2018年9月20日9:00より、カンボジアシエムリアップ市アプサラ機構国際会議場にて、ユネスコ（カンボジア政府文化芸術省事務局）が主宰し、ユネスコ、各国政府代表、各国NGO等が集まり、第4回プレアビヒア国際技術調整委員会(ICC: International Coordinating Committee for Preah Vihear 4th technical session)が開催されました。会議では、各国の活動が報告される中、日本から当協会の活動も、各国の委員に報告されました。



紹介された2018エコビレッジ事業（日本語仮訳：協会）



- 水資源の不足
- 2017年、低い農業生産性
- 貧しい農民の収入
- NAPV事業は以下を目指す
- 水資源の確保
- 灌漑技術、農業技術の移転
- 農業生産性の改善

2. プレアビヒア日本協会との連携



<プロジェクト目標>

- 農業用水の確保
- 農業生産技術の移転
- 栽培作物選定技術の獲得

目標

- 農業技術の改善
- 年間収量の増大
- 灌漑、水供給の技術の向上
- オーガニック農業の導入
- 環境保護意識の育成
- 農作物生育技術の獲得
- 農産物販売先の開発

プロジェクトのニーズ調査

- グループ会議
- 農家の調査



3. 2018-2019年のプロジェクト計画

- 溜池構築 (25m×50m、4基)
- 植樹の追加
- 農作物耕作用温室建設 (2箇所)
- 農業技術の住民への移転



2018-2019年、NAPV (ナショナルオーソリティ) オーガニック農業計画



- 第1フェーズ
- 4基の温室建設
- オーガニック野菜の試験栽培
- 野菜マーケットの構築



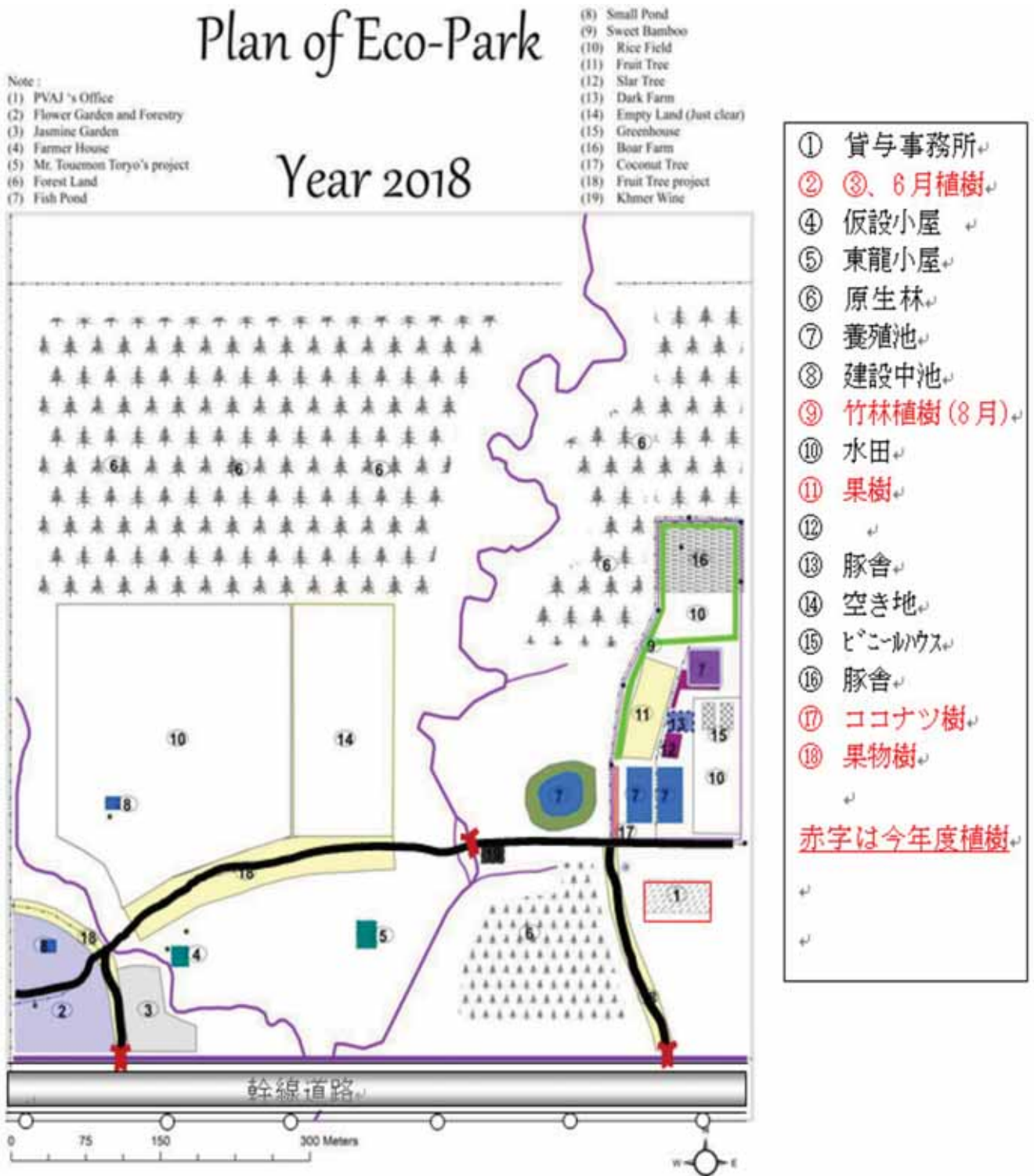
オーガニック農業の原理

- 十分な量の高品質作物の生産
- 農業生産システムの中で微生物の繁殖と活用サイクルの育成
- 微生物、土壌フローラ、植物および動物との連携技術確保
- 長年にわたり土壌肥沃度を維持し、増加させる技術の確立
- 遺伝的多様性を維持
- 地域の再生可能資源使用
- 安全な作業環境

2. 2018年のエコパークにおける住民との共同事業

2018年4月から12月の共同事業は以下のとおりです。（下図参照ください）

- (1) 貸与を受けた事務所とお花畑とをつなぐ道路の開通（2018年5月）
- (2) 同上道路の橋の建設（2018年5月）
- (3) 事務所と幹線道路を結ぶアクセス道路の開設と橋の建設（2018年6月）
- (4) 植樹の進展（2018年6月、8月、9月、11月）
- (5) 幹線道路沿いの電気の敷設（電柱の建設）（2018年6月）
- (6) 幹線道路の拡充と整備（2018年0月～11月）



(1) 借り受け事務所とお花畑をつなぐ
道路の開通 (2018年5月)



(2) 事務所と幹線道路を結ぶアクセス路の
架橋 (2018年6月)



(3) 事務所と幹線道路を結ぶアクセス道路の
開通 (2018年6月)



(4) 植樹の進展 (2018年6, 8, 9, 11月)



(5) 幹線道路沿いの電柱の建設 (2018年6月～)



8月植樹の様子



村のため池の対岸に送電線が建設された
(2018年8月撮影)

(6) 幹線道路の拡張工事 (2018年10月～)



2018年6月時点の道路 (拡張前)



2018年10月末 (拡張された道路)

2018年8月：カンボジア風の高床式貸与事務所
1階は集会広場



事務所2階から見た養殖池の風景
(日本青年会議所JCIプロジェクト)



18年8月事務所1階での集会風景
地域の方々と植林の打ち合わせ



2018年8月 (養殖池でのセラピアの育成風景)



プレアビヒア 2019-01 (PVAJ会報誌)
Cambodhia Magazine

2019. 04. 01発行

特定非営利活動法人 アジアの誇り・プレアビヒア日本協会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目4-4 明治書房ビル2階
<http://www.preahvihear.org>
TEL03-03-5259-507 e-mail:contact@preahvihear.org